

◆ 全学共通科目の履修について

1. 上智大学の全学共通教育

上智大学の全学共通教育はキリスト教ヒューマニズムを基礎とする教育である

上智大学は、「キリスト教精神を基盤におき、真理と普遍的価値観を求める教育研究により、人間形成につとめることを目的とする共同社会」です。上智大学で行われているさまざまな教育研究のなかでも、全学共通教育は、それらすべての教育の根本である「キリスト教ヒューマニズム」に基づいています。キリスト教ヒューマニズムとは、絶対的な価値に思いを至しつつ、人間と社会や自然の諸問題をその根本から考え、真の解決を目指そうとする考え方であり、生き方でもあります。

そうした考え方と生き方によって豊かな人間形成と平和な世界を実現するために、本学の学生諸君は、「他者のために、他者とともに生きる人間 Men and Women for Others, with Others」として、心身のバランスと深い教養を兼ね備えた人格を自覚的、主体的に育てていくことが求められます。上智大学の全学共通教育は、学生諸君がみずから問題を意識し、問いかけ、解決するためのさまざまな機会を提供します。全学共通教育によって身につけるさまざまな価値観を、みずからの人格形成のために役立ててください。

「キリスト教人間学」科目群がキリスト教ヒューマニズム教育の基礎をなす

上智大学の全学共通科目は、「必修科目」、「選択必修科目」と「選択科目」に大別されます。そのなかで、上に述べた教育の根本を示し、「キリスト教ヒューマニズム」教育の基礎を担うのが、本学のユニバーシティ・アイデンティティ科目である「キリスト教人間学」科目群です。

キリスト教人間学とは、キリスト教的な観点から、人間の超越性に関わった哲学・倫理学・宗教学を基盤に、諸科学などの成果をも援用して、現実生きる人間とその生き方を総合的に考える学問です。そこでは、「思索の基盤を深める」「キリスト教の精神に学ぶ」「人間として生きる」「よりよい世界をつくる」という4つの基本区分に沿って、他者とともに生き、他者に奉仕し、社会をより良く変革する人間、人間性のあらゆる次元を探求し、広く深みのある連帯を追求する人間となることが目標とされます（52頁の「キリスト教人間学科目群の共通講義概要」および「評価基準」を参照）。

本学で学ぶ諸君は、本学の教育のコア科目である「キリスト教人間学」科目群へ参加することを通じて、みずからの成長に真摯に取り組み、他者とのかわりを大切にし、倫理的思考と判断力を備え、超越的価値にも目を開きつつ、地球的な視野に立ってより人間的な世界を築き上げる人間となるよう努力してください。

全学共通の必修科目は現代の人間形成に欠かせない分野である

「ウェルネスと身体」、「情報リテラシー演習」、「外国語」科目が、全学共通教育の必修科目として課されています。「ウェルネスと身体」は、スポーツや運動に関する科目というだけでなく、人間として生きていく上で不可欠な、身体知と健康の問題を自覚し総合的に実践する科目です。「情報リテラシー演習」は、情報ネットワークで連携された現代社会に生きる技術だけでなく、社会性や倫理性のような人間性の問題にもかかわる科目です。「外国語」科目は、上智大学の大きな特色である、少人数での豊富な外国語教育の機会を提供することで、人類のグローバルなコミュニケーションを可能とするための科目です。いずれも、他者とともに生き、他者に奉仕し、社会をより良く変革する人間となるために欠かせない重要な科目です。

学際的な科目、「学科科目で全学共通科目として認められる科目（学全科目）」を受講して広範かつ専門的な視野をもつことができる

上智大学の全学共通科目の顕著な特色は、それらの科目が原則として、本学のいずれかの学部学科に所属している専任教員によって開講されていることです。そのため、各開講科目のテーマと内容には、本学の各研究分野の専門的な特色が反映されています。したがって、漫然と授業を受ければ一般的な教養が習得されるという類のものとは異なり、どの授業でも、学生諸君の積極的な受講態度が求められています。

上智大学の全学共通科目の中には、本学のルーツとアイデンティティ、地球環境問題、人権問題や平和問題など、専門分野の枠を超えた広い視野に触れることができる学際的な科目が多数開講されています。さらに、より深い専門的な知識と理解を求める学生諸君のためには、学際的な科目とは対照的な科目として、各学部学科が開講している専門科目を他の学部学科の学生諸君にも開放する「学全科目」が数多く提供されています。

学際的な総合分野から個別の専門分野までわたるこれら広範な科目群は、8学部を擁する総合大学としての上智大学が豊富な人材と研究機構をもち、そこに所属する人々が専門性を保持しながら、「キリスト教ヒューマニズム」を基盤として全学的な協力関係をつくることで実現されるものです。本学の全学共通科目にそうした科目群が開講され、すべての学生諸君が利用できるということは、他では得ることのできない貴重な機会です。ぜひともこの教育資源を十分に活用して、自分の中に豊かな人間性を育て、「他者のために、他者とともに生きる人間 Men and Women for Others, with Others」となってください。

全学共通科目の全体構成

》》》 思索の基盤を深める

哲学・倫理学・宗教学を基盤として、人間を知り学問を深めるための基本を学びます。

》》》 キリスト教の精神に学ぶ

聖書・神学への理解などを通じて、キリスト教ヒューマニズムの神髄に触れます。

● キリスト教人間学 ● (選択必修)

キリスト教的な観点に基づき、現実
に生きる人間とその生き方について
4つの側面から総合的に学びます。

》》》 人間として生きる

人間の尊厳を知り、自己を高
めながら他者のために生きる
姿勢を身につけます。

》》》 よりよい世界をつくる

環境保全や人権尊重、平和維
持など全地球的に取り組むた
めの態度・考え方を養います。



● 必修科目 ●

現代社会で働き生きる人間にとって不可欠な心と体、情報、コミュニケーションに関する知識とスキルを学びます。

》》》 ウエルネスと身体

よりよく生きるための重要なメディアである身体(身体知)について学び、トータルな健康を求めるウエルネスへの理解を深めます。

》》》 情報リテラシー演習

パソコンとネットワークに関する基礎スキルを身につけるとともに、高度情報化社会における倫理的な問題など人間の生き方にも目を向けます。

》》》 外国語科目

あらゆる学問に欠かせないグローバルなコミュニケーション能力と、異なる文化・社会・価値観への理解力を高めます。

● 選択科目 ●

現代社会を取り巻く複雑な課題に対処できるよう、専門分野の枠を超えた4つの視点から学際的にアプローチします。

》》》 建学の理念

ルーツと伝統／キリスト教精神*

本学のアイデンティティを知り、キリスト教ヒューマニズムを体得します。

》》》 思索の基盤

哲学*／倫理*／宗教*

物事の本質を捉え、より深く考えるための基盤となる叡智を身につけます。

》》》 人間と文化

言語文学系*／歴史文化系*／身体文化系*／基礎科学系*

人類社会の未来を築く人間に欠かせない幅広い教養と知見を養います。

》》》 共生と世界

地球環境系*／生命社会系*／人権平和系*／情報社会系*

ひとつの学問領域では解決できない全地球的な課題への理解を深めます。

*印の科目群には学全科目(各学部・学科が全学共通科目として提供する科目)が含まれます。

2. 全学共通科目の選択必修，選択科目履修方法について

1項の全学共通教育における使命に基づき，本学では多領域にわたって科目群や科目数を整え，充実したかたちで開講している。したがって学生はその一つの領域に偏ることなく，できるだけ幅広く履修し，また，専攻分野との有機的な関連づけを考慮し，学際的な理解を深める機会とするなど，各自が個性的で調和のとれた履修形態を主体的に選択することが強く望まれる。

全学共通科目（選択必修・選択）は，基本的には専攻の学科科目と並行して履修することによってその成果が期待されるものである。したがって学生は，うわべだけの履修に終わりがちな短期間での過密・集中的な履修を避け，また無計画で便宜的かつ安易な履修に随することなく，「コース・メニュー」を組み立てるなど，各自の関心に応じてある程度系統だった実のある履修形態を主体的に工夫することが強く期待される。

なお，学生は自分のニーズに合った適正な履修方法を考えるに当たって，所属学科の教員はもとより，全学共通科目担当教員の助言を求めることができる。

3. 履修登録について

所定の期間に各自で行うこと。クラス指定や必修科目であっても自動的に登録されないのど，十分注意すること。履修登録については，各ページの履修上の注意，および「履修登録の手引き」，「Loyolaハンドブック」を必ず参照すること。

4. 重複履修について

同一科目を2回以上履修しても，卒業に必要な単位として認められない。

同一科目とは，原則として科目コードが同じ科目である。

5. 抽選科目について

開講科目担当表の備考欄に「〇〇〇名」というようにカッコで囲まれた定員数が記載されていて，授業時間表に赤字で表記されている科目が抽選科目である。

抽選科目の履修登録方法についてはp.17および「履修登録の手引き」「Loyola ハンドブック」を参照すること。

※00年次以前生は，2007年度履修要覧を参照すること。